

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

7月も半ば過ぎに入りました。梅雨は長引いていますが、すでにヒグラシの鳴き声が聞こえ、本格的に夏が来たことを感じさせられます。いつもの年であれば、今頃は、水泳の授業があったり宿泊行事に出かけている学年があったりと思うと、こうして静かに暮らしている7月がとても不思議でなりません。

このところの雨の降り方には本当に驚かされました。梅雨と言えば、一昔前までは「しとしと」というオノマトペ（ようすを音で表したことば）がぴったりという感じでしたが、近頃の雨はどう表現したらよいのでしょうか。「ざあざあ」などというレベルではありません。「ゲリラ豪雨」という言葉まで登場しました。豪雨にさらにゲリラ（奇襲攻撃のような戦い方の意味）が加わって、自然と人間が対立関係にあるかのように響きます。日本人は、おそれ敬い、親しみ愛しながら、自然とともに暮らしてきたはずです。しかし、今や、日本語独特のオノマトペで表せないような雨の降り方になってしまっているということに淋しさを感じます。

ところで、それぞれの国の言葉で雨の降り方をどのように表現しているかを調べてみると、とても興味深いことがわかります。例えば、英語でにわか雨のことを「shower(シャワー)」というのは、とても楽しいと思いませんか。「shower」と聞くと、もちろんお風呂のシャワーを一番に想像しますが、なるほど、夕立は「shower」です。「shower」という言葉には、溢れるほど豊かに注がれるものという意味が込められているようです。それがわかったのは、「showers of blessing (祝福のシャワー)」という表現に出会った時です。神様の祝福がまるでシャワーの水を浴びるかのように溢れるほど注がれるのを想像し、とても嬉しく感じたのを覚えてます。今も昔も、外国でも日本でも、雨は生きているもの皆に、命の源である水をもたらしてくれる恵みの雨です。神様は雨を降らせて私たちを生かしてくださり、溢れるほどの祝福で満たしてくださるので

す。
このところの日本の雨の降り方が気候変動によるものであるならば、年々激しさを増す洪水や土砂災害は、自然の災害ではなく人が起こした災害というべきでしょう。今回のコロナの問題を通して私たちの生活のしかた全体を見直すとともに、温暖化のために、各自にできることを少しでも実践できますように。そして、「しとしと」が日本語のオノマトペから消えないことを願うばかりです。

